

○神功皇后は雷山から降り、三坂で休憩したのち、いよいよ、旧伊都国の中心地を通る。

南に雷山、東に高祖山、西に曾根の丘陵に囲まれ、北の志摩の山々を望む平坦な地域に旧伊都国の中心地があった。西に流れる雷山川と東に流れる瑞梅寺川に挟まれ、旧糸島水道に面した河口付近に志登神社がある。



志登神社（福岡県前原市志登）

延喜式内社 旧県社で祭神は豊玉姫である。社殿は、西方の唐津湾、壱岐、対馬、朝鮮の方向に建てられ、入江であった頃は海上から参拝するようになっていた。口碑によると、山幸彦が海神国へ行って先に帰ってきたが、妻の豊玉姫が後を追って上陸した霊地として祀られ、豊玉姫を祭神とした。縄文終末期から弥生時代中期に及ぶ甕棺墓を含む墓地遺跡群が発掘され、志登遺跡群と呼ばれている。



さざれいし
細石神社 志登神社上流に三雲という集落があり、そこに細石（佐々礼）神社がある。その東200mのところに入龍の森があった場所は山幸彦の生誕地であるという。

君が代の源流か

細石神社裏の三雲遺跡と井原鍮溝遺跡からはおびただしい遺物が出土した。井原遺跡からは径46.5cmの世界最大のないこう かもんきょう内行花文鏡が発見された。

ここが旧伊都国の首都であった。

古今和歌集第七 賀歌 343 題知らず 読み人知らず
わが君は 千代に やちよに さざれ石の 巖となりて
花のあまた

- 神功皇后一行は、旧伊都国を離れ、日向峠を通過して東の旧那国に向かった。ただし、奴国に入る前に早良郡を通らなければならない。

「早良」のいわれ

早良という地名は、おそらく、早良、麓原、背振とも同じ発音をしていたのだろう。あるいは、朝鮮語で「首都・都」を意味する「ソウル」であったかもしれない。

早良郡は怡土国の東に接し、北は博多湾、東は那珂郡（奴国あるいは難県）、南は背振山地があり、吉野ヶ里遺跡がある肥前国神崎郡に接している。

『和名抄』では、「左波良」と表記され、伊、能解、額田、早良、平群、田部、曾我の七郷があった。

神功皇后は椎原から板屋峠を越えて背振山に登り神に祈り、板屋方面に下山し、那珂川の上流沿いに向けて歩いた。

神功皇后は山田村（那珂川町山田）に入った。



〈鬼が舞う。岩戸神楽〉

那珂川町山田にある伏見神社で、毎年七月十四日祇園祭の夜に岩戸神楽が奉納される。



伏見神社（筑紫郡那珂町山田）

背振山北東麓高台に南面里村という集落がある。さらにその高地に戸板村がある。その村に高さ3間半（約6.4m）根の広さ8間2尺、（約15m）の大岩があり、岩戸と呼ばれている。このあたり一帯は天照大神の岩戸伝説が多くこのこされている。

南面里村の下方の集落は、岩戸村と呼ばれていた。

伏見神社の西側に道路が南北に走り、古代から肥前地方と結ぶ主要道の一つであり、この地に「山田の駅」が置かれていた。

伏見神社の拝殿にはナマズの絵馬が奉納されている。

伏見神社縁起に、「鞍掛け鯰の居る所。神功皇后が三韓征伐の時、背振山に登られ、難の川を渡らせ給う時、馬の鞍に魚が飛び上がり、皇后、なまづめたい、といわれ、その魚を鯰と名付け給ふ。皇后三韓征伐の舟出で給う時、無数の鰻群れをして舟を抱き水先案内し、戦勝されてより神の使とされた。鯰は平時姿を見せぬが、天下事変に現れる」とされている。

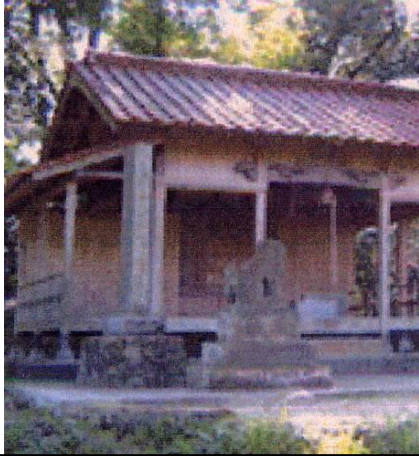
○安徳台の台地

『日本書紀』 そこで^{みとしろ}神田を定められた。難の河（那珂川）の水を引いて、神田に入れようと思われ、溝を掘られた。^{とどろきのおか}迹驚岡に及んで大岩が塞がっており、溝を通すことができなかった。皇后は武内宿禰を召して、剣と鏡を捧げて神祇に祈りをされ、溝を通すことを求めた。その雷が激しく鳴り、その岩を踏み裂いて水を通じさせた。時の人はそれを名付けて^{さくたのうなで}裂田溝と叫んだ。

迹驚岡 山田村の北側にある安徳台と呼ばれる台地のこと。

那珂川の右岸にあり、海拔60m、広さ23ヘクタールの広大な台地。東に城の山西に松尾山に挟まれた天然の要塞。

別名御所の原、上の原とも呼ばれる。



裂田神社 神社の後ろには溝が流れていて裂田の溝（うなで）といわれている。



弥生時代の集落が出土した安徳台遺跡

安徳大塚古墳
古墳時代初期の前方後円墳。福岡平野で最古、最大級の前方後円墳といわれており、全長約六十四メートル、後円部は径三十五メートル、高さ六メートル、前方部幅二十メートル、高さ二メートルである。大和政権と密接な関連を有する一大豪族の墓と考えられる。

